

高梁川流域キッズ

たかはしがわりゆういき

高梁川流域ゆかりの

いじん けんじん とくしゅう

偉人・賢人特集



かつやく とし
活躍した年:

1726~1807年



かつやく ぶんや
活躍した分野:
ちりがくしゃ
地理学者



ふるかわ こしょうけん
古川 古松軒

新高見
総社市

総社市

早倉 矢井 浅里 笠
島 敷 掛原 口庄 岡
町市 町市 町市 町市



たかまつじょうみずげめちり ず てんしょう ねん はしぼ とよとみ ひでよし たかまつじょう みずげ
高松城水攻地理の図には、天正10(1582)年、羽柴(豊臣)秀吉が高松城に水攻め
ようす えが
をおこなったときの様子が描かれています。

ふるかわこしょうけん きょうほう ねん いま そうじゃしんぼん う
古川古松軒は、享保11(1726)年、今の総社市新本に生まれました。

こしょうけん えどじだいこうき りょうか ちりがくしゃ ゆうめい てんめい ねん がつ
古松軒は江戸時代後期の旅行家、地理学者として有名であり、天明3(1783)年3月
まつ がつ さんよう きゅうしゅう めぐ さいゆうざっき か じゅんけんし ばくふ
末から9月にかけて、山陽、九州を巡り、『西遊雑記』を書きました。また、巡検使(幕府か
はけん しせつだん どうぼく ほっかいどう い どうゆうざっき か
ら派遣された視察団)について東北・北海道に行ったときには『東遊雑記』を書きました。

ぬ そくりょうぎじゅつ も ひやくぶん いっけん がくもん しせい じぶん め み
ずば抜けた測量技術を持ち、「百聞は一見にしかず」という学問の姿勢で、自分の目で見て
じじつ けいけん じゅうし じっしょうてき ちりがくしゃ おお ちず ちし か のこ しりょう
事実と経験を重視する実証的な地理学者でした。また、多くの地図や地誌を書き残し、資料
とうじ じょうけい つた
として当時の情景を伝えています。

たん ちりがくしゃ しゃせいが わか れぎし たか きょうよう も ぬし えどぼくふ ろうじゅう
単なる地理学者ではなく、写生画・和歌・歴史など高い教養の持ち主で、江戸幕府の老中・
まつだいらさだのぶ いちもく お じんぶつ えど もど いんたい おかだむら いま くら
松平定信からも一目置かれた人物でした。江戸から戻ったあとは引退して、岡田村(今の倉
しきしまびちょうおかだ す まつ ちな こしょうけん しょう
敷市真備町岡田)に住み、そばにあった松に因み、古松軒と称しました。